

印西子どもの文化連絡会とのグループ別対話会(ご意見と回答)

1. 日時 令和8年3月11日(火)14時~15時15分
2. 場所 印西市役所 庁舎別館1階 農業委員会会議室
3. 出席者 印西子どもの文化連絡会、市長、生涯学習課(各図書館担当)、指導課、企画政策課、文化振興課、秘書広報課

4. 内容

(1)印西子どもの文化連絡会(以下、子文連)活動紹介/1人1冊好きな本の紹介

【参加者発言(要旨)】

団体紹介

- 子文連は、小林・木刈・内野の3団体が、40年前から印西市(当時は印西町)で活動してきたこと、当時は図書館も本屋さんも少なかった頃から子どもたちに良い本を手渡したいという思いで続けてきた団体である。
- アイスブレイクとして参加者がそれぞれ市長に紹介したい本を1冊持参し、紹介した。

3月31日に発行される「民話絵本 光堂の竜」について

- 印西の民話・出版に関わる話として、1992年(印西町時代)に制作した絵本の題字や民話集の原画を買い取った経緯があり、30年前に民話絵本の第1弾が出たときは印西町で、教育委員会が発行した。

【市長発言(要旨)】

紹介された本について、今回初めての出会いのものが多くありました。今後もぜひ子どもたちとの話題にしてほしいと思います。

(2)「民話絵本 光堂の竜」を印西の特徴として生かす提案

関係課:文化振興課、生涯学習課、各図書館

【参加者発言(要旨)】

- 「光堂の竜」は、単なる新刊というだけでなく、教育委員会が出版するという日本でも稀な形、世界的に著名な作家等が関わる希少性、出版業界でも注目される価値、印西市の“特徴”として今後生かすべきである。
- 文化財として本当は子ども一人に1冊配りたいくらいだが予算制約もあり、せめて授業等でクラス人数分(30~40人分)くらいは揃うようにできればいい。

- 活用は教育分野に留めず、観光や生涯学習(史跡を訪ねる、歩いてみる等)まで横断的に広げてほしい。

【市長の発言(要旨)】

読書の入口としてワクワク感・楽しさが大事であり、その先に印西の歴史があることを知ってもらう場づくりが必要と認識しています。

今年は市制施行 30 周年の節目。事業を進めるにあたっては、30 周年の冠を付けて、なるべく多くの方に知っていただきたいと考えています。

【文化振興課補足】

- 令和 6 年度には絵本でクラシック「そうふけっぱらのきつね」を実施しました。また令和 8 年度は「光堂の竜」も指定管理者と調整して絵本でクラシックの実施を進める方向で動いています。
- 作家の了解など慎重に確認しながら進めてまいります。

(3)学校教育での活用(読み聞かせ／社会科・副読本との接続)

関係課:生涯学習課、各図書館、指導課

【指導課発言(要旨)】

一番活用しやすいのは読み聞かせの時間での活用である。小学校ではほぼ全校で読み聞かせボランティアがおり、読み聞かせの時間に「光堂の竜」を選んでいただくなど。

小学 3・4 年生の社会科の印西市の学習や、1～6 年の副読本ふるさと印西学の学習の中で、地元につながる民話として紹介・活用できると考えています。

【参加者発言(要旨)】

ぜひ進めてほしい。安心した。学校での活用拡大(ボランティアへの展開、授業での活用、クラス単位で触れられる体制)を改めてお願いしたい。

「光堂の竜」は活字が少なくストーリー性が弱いように見えるため、読み聞かせの工夫が必要であり、ボランティア向けに読み方を学ぶ機会も検討中である。

(4)読み聞かせの難しさと支援策(講習会／動画化など)

関係課:生涯学習課、各図書館

【参加者発言(要旨)】

- 文字が少ない絵本の読み聞かせは難しい。誰でも読めばいい、というものではない。
- 学校司書が配置されるなら、司書の先生が気楽に読んであげられるような講習会ができるとよい。私たちも混ぜてもらえるととっても良い。
- 活用検討会の中でもコツがいる本のため、ただ読むとあっという間に終わって“それなんだ”で終わる等の懸念がある。
- こどもの読み方は一点集中で発見して次ページにつなげる特徴があり、大人が全体を見る読み方と違う。

【生涯学習課(図書館担当)発言(要旨)】

活用方法は検討会でも議論予定であり、今後は発刊に向けて来年度何をするかを中心に検討してまいります。

【市長発言(要旨)】

一案として、読み聞かせの様子を映像で撮り、解説動画があれば司書の方も対応しやすいのかもしれないと思いました。引き続き担当課で検討してまいります。

(5)市長メッセージ・トップセールス要望

関係課：生涯学習課、各図書館

【参加者発言(要旨)】

- 市長がメッセージを添えたり、出かける際に携帯して紹介するなどトップセールスをしてほしいと。
- 30周年などの機会に、市民へ広く周知してほしい。

【市長発言(要旨)】

まずは教育長からのメッセージなどで発信できる機会があれば活用してもらえよう共有します。私は、イベントなどで挨拶の機会があれば思いは伝えていきたいと考えています。

「民話絵本 光堂の竜」は国会図書館に来年置くことになっています。作って終わりは意味がないという認識はあります。フォーラムなども、やること自体より“多くの人に来てもらえる・知ってもらえる仕組み”を考えるよう全庁的に各担当課にお願いしているところであり、活用の方法は引き続き検討してまいります。

(6)市の図書館運営の現状と評価(図書館協議会委員の所感)

関係課:生涯学習課、各図書館

【参加者発言(要旨)】

図書館協議会委員としての立場から、最近の変化として次の3点を挙げた。

- 1) 20年間下がる一方だった図書費(資料費)が増額され始めた
 - 2) 26年ぶりに正職(正規職員)の司書採用が再開され、継続している／学校司書採用も行われている
 - 3) 司書資格を持った館長を採用している
- 少しずつでも図書館が変わってきている。ありがたいと評価した。

【市長発言(要旨)】

まだ道は半ばではありますが、つながる図書館という言葉は共感するところです。基本姿勢として、6館体制は維持すべきと考えています。ただし館ごとの個性は、その館を担う人材が地域特性を踏まえて作るものです。人材は1丁目1番地。今回、司書資格を持つ館長を採用することで一歩進んだと思っています。

(7)提案:義務教育学校の図書館を一般開放(地域の図書館機能の補完)

関係課:学務課

【参加者発言(要旨)】

- 義務教育学校の新設にあたり、学校図書館を一般市民にも開放する図書館を設計段階から検討してほしい。近隣では白井市(七次台小)に事例がある
- 図書館が近くでない地域への効果がある
- 入口動線や運用(司書在勤時間の一部開放など)を設計段階から考える必要がある
- 2月26日の総合教育会議で触れられた生涯学習課(社会教育)を別に考える点の詳説と、牧の原駅圏の複合施設構想では経験ある市民の声を基本計画の段階から入れてほしい、可能であれば子文連も参画したい。

【市長発言(要旨)】

義務教育学校は、地域に開かれた学校にしたい思いはあるが、どういう形がいいかは検討してまいります。

体育館や特別教室の開放、公民館機能の一部を学校に入れる事例などもあるとし

て、担当課・教育委員会と相談していきたいと考えています。

(8) 牧の原駅圏の複合施設：市民意見を踏まえた段階的なブラッシュアップ方針

関係課：企画政策課、資産経営課

【参加者発言(要旨)】

コスモスパレットでは少人数(40人程度)しか入らない、50～60人規模の会合がしにくい。芸術ホールは別の制約もあり、使い勝手が悪いなど不便さがある。今回同じことが起きないようにしてほしい。

【市長発言(要旨)】

- コスモスパレットの予約・スペース・備品等については、ご意見を事前に吸い上げきれなかった部分があったため、今回はたたき台を先に出し、早い段階で皆さんからご意見を聞く機会を設定させていただきました。
- 牧の原駅圏の検討について、11月の対話会やYouTubeでの発信、サウンディング等で意見を聞いています。
- 図書の機能は一部入ってくる想定ですが、図書館というより複合的な場が出口ではありません。
- 段階を刻み、意見を聞きながらブラッシュアップしていきます。
- 背景として公共施設が入りづらいという意見が多かったことがショックであり、特に中学生が図書館で“大人に騒ぐと思われる目で見られる”ので行かないという声があったことが残念で、用事がなくても気軽に行ける公共空間が必要と考えています。
- 施設像として、単に機能を並べるのではなく、カフェ・打合せ・図書コーナー等が有機的につながる空間を例示し、北欧の事例のような交流が生まれ、新しい何かが生まれる場が理想であると考えています。
- 細部に宿る導線設計、コンセプト、デザインが重要であり、今後民間・市民の意見を聞き、最終的に良い施設となるよう全力で進めていく。

【企画政策課補足】

構想案への意見(図書館機能を含む)を承知しており、市有地不足の中で民間施設活用を含め市場調査(サウンディング)を進めるとともに、市民の皆さんにご意見を伺いながら進めてまいります。

(9)教育 DX・生成 AI:不安への向き合い方(一次情報/図書館の役割)

関係課:指導課、DX 推進課

【市長発言(要旨)】

DX 教育は手段であり、北欧で電子教科書をやめる国があることも承知しています。フェイクニュースや生成 AI の精度向上により、今後走りながら考えるしかない部分はあります。

職員にも生成 AI 利用を促していますが、AI に対して無防備でないことを徹底する必要があることも認識しています。

【参加者発言(要旨)】

勉強会等で脳科学的観点を含め学んでおり、片方に頼らない両輪(デジタルと本・感性)が必要。

【指導課発言(要旨)】

DX はデジタル化そのものではなく、子どもの学びを支える先生の働き方を改善するためのものと考えています。ただし学校全体はデジタル化に進みますが、リアルな体験、紙ベース図書館の情報も大切にしていきたいと思います。

情報活用教育としては、小さいころから一次情報に当たること、図書館など信頼できる情報に当たること、生成 AI の回答を鵜呑みにせず複数情報に当たること、さらに上の学年ではいつ・誰に向けた情報か目的は何かまで考えることを段階的に指導していきたいと考えています。

【市長発言(要旨)】

教育長や関係者と話しても共感することが多く、単にデジタルを広げればいい話ではないことは共有しています。

個人的な感覚として本当は泥んこの中で遊ぶのが好きです。そういう場も作っていききたいと考えています。